

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201856		
法人名	有限会社 生陽会		
事業所名	にこやかハウス大谷		
所在地	静岡県駿河区大谷406-2		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UjyosyoCd=2294201856-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状を維持・改善するために、1日 水分1500cc・食事1500Kcalを摂取目標とし、排便は3日に1回は出る様支援し、有酸素運動(散歩)・脳活性化アクティビティ・身体リハビリを毎日行っている。取り組みをデータにまとめて定期的な評価を行っている。入居者様1人1人の症状に合わせて、水分量・歩行距離・リハビリメニューを考えて実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設の小規模多機能事業所では「でんでん体操」に地域住民が集まり、地域の祭りでは焼きそば担当で尽力してただけあって、コロナ禍となっても温かな気持ちの往来のある事業所です。唱歌コーラスのボランティアの皆さんがDVDに収めて歌声を届けてくださったり、近所からの手作りマスクやウエスの寄贈もあり、散歩では「どう?」「元気そうで安心したわ」と声が入り、職員の励みとなっています。事業所でも行き来のあった地域住民の皆さんには「コロナが終息したらまたいらしてくださいね」と、「事業所通信」や「感染症対策のしおり」を届けたり、家族には写真の枚数を増やして「利用者の様子」を送り、返礼や感謝の言葉が集まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りで理念の唱和をしています。常に入居者様の声に耳を傾け、寄り添い、入居者様の事を1番に考えて行動できる様に心がけています。	職員ミーティングでは理念推進に係る「困っていること」「できているか」の確認がおこなわれ、また「個人評価シート」においても個人面談において同様のフィードバックがあって、意識継続が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の秋祭りに参加し、焼きそばの屋台を出し、地域との交流をする。(今年はコロナで中止)入居者様との毎日の散歩中、近隣の方々と挨拶を交わし、なじみの関係を作っている。	唱歌コーラスのボランティアの皆さんがDVDに収めて歌声を届けてくださったり、近所からの手作りマスクやウエスの寄贈もあり、散歩では「どう?」「元気そうで安心したわ」と声が入っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人本部と共に、年1回の地域密着活動として介護教室を開催している。(今年はコロナで中止)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催している。地域の方々に参加して頂き、運営状況・活動状況・事故報告書・ヒヤリハットレポートの報告をし、意見交換を行う。(今年はコロナの影響で途中から書面にての報告のみとさせて頂いている)	運営推進会議は4月から集会しない書面開催に切り替えています。事前にメンバーに開催方法の変更を伝えたくうえで、2ヶ月分の活動内容を管理者とリーダーでまとめ、郵送の中には意見も求めています。	意見を求めてくださっていますが、条例下の制度のため、市役所(もしくは地域包括支援センター)には「確認した」との返信をもらっておくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者に運営推進会議の出席を依頼し出席して頂いている。	併設事業所では「でんでん体操」に地域住民が集まり、当事業所の利用者も参加することもあり、また当事業所の管理者が地域包括支援センターの地域ケア会議への出席も重ねています。(現在はいずれも中止)。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、全体カンファにて身体拘束の研修を行っている。	身体拘束委員会の設置が義務付けられて早3年、四半期毎の開催が定着するとともに、職員の意識にも変化が見られ、身体拘束を未然に防ぐ視点や気になる箇所が増えるなどの効果、効用が出始めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体カンファにて、虐待の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの担当者とは、いつでも相談できる関係を築いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、見学をして頂き施設の取り組みなど細かく説明する。契約時には、入居から退去に至るまで説明し、入居者様、ご家族の不安がなくなり、納得がいくまで話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には入居者様・ご家族の代表者1名ずつに参加して頂き、意見を伺っている。面会時や電話連絡時にも意見を伺うようにしている。	三者面談等ひざぐめで話す機会を設けてきただけあって、家族アンケートも9割近くの回収率で、信頼の厚みが滲みます。「にこやかハウス大谷だより」と職員が綴る一筆箋のほか、現在は写真も増やしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員ミーティングを行い、1カ月の振り返りし、職員1人1人の意見や提案を聞き共有している。全体カンファ・ユニットカンファも毎月1回実施している。年に2回個別面談も行っている。	全体カンファ(研修含む)、ユニットカンファと、職員が顔を合わせて話し合う機会を設けており、また管理者が上層部にあげた職員意見は概ね通っており、最近では消毒液ポンプを自動ディスペンサーに替えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別評価制度があり、年2回実施している。評価後にはフィードバック面接を行い職員の意見や相談事などを聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として新人研修を実施している。事業所内研修、社内研修も実施している。外部研修は回覧で職員に周知しすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の地域ケア会議や認知症サポーター養成講座などには、積極的に参加する様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の生活歴などを、ご本人やご家族からお聞きし、まずその方の事を知る事から始める。日々、入居者様に寄り添い、思いを聞き、他入居者様方と良い関係を築ける様お手伝いをさせて頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し入居に至るまでの経緯や、困っていることや不安に思っている事や要望などを聞き、話し合う様にし信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向に可能な限り応えられるような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で役割を持って頂き、積極的にお手伝いをして頂く様にしている。喜びや悲しみを分かち合い、共に支え合える関係作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今現在は「コロナウイルス感染予防」から面会はオンラインでお願いしている。日々の状態変化や往診時の変更事項などは、ご家族に随時連絡をしている。毎月「にこやか大谷だより」と共に入居者様のご様子をお手紙に書いて添えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の許可があれば、ご友人・お知り合いとの面会も可能。お電話でお話する事も可能。お散歩でお会いするご近所の方々ともなじみの関係を築いている。	面会はタブレットやスマホを活用してズームでおこなっています。静岡市が発令するレベルを注視（現在は5）しており、「3になったらマスク着用で玄関で5分程度」可能となります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係がうまくいく様に、職員が間に入りお手伝いさせて頂く。席順や散歩のグループ分けなどは、入居者様同士の関係性に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に転居された入居者様やご家族とも、交流を持つ様にしている。ご家族からの近況報告などもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に希望・意向を聞き、ケアプランを立てる。ご本人の思いには耳を傾ける様にしている。	「たまにお酒が飲めたらいいな」とする女性利用者には、体調管理の徹底と医師と都度相談を以て実現させようとする姿勢が介護計画書から確認できます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活歴などを、ご本人やご家族からお聞きし書面にする。職員が共有できる様にする。入居後にお聞きした事も書き加えていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝体温・血圧測定をしている。日々の生活の中で、入居者様の心身状態の把握に努め、変化があれば記録に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活や会話の中から、ご本人の希望や意向をアセスメントし、カンファで話し合いケアプランを作成する。1か月に1回モニタリングを行っている。	3ヶ月に1度介護計画書の見直しをおこなうと同時に家族とも面談の場を持ち、3ヶ月間の水分摂取、食事、排泄、運動のデータと現状との関係や認知症の変化を相互確認しつつ、介護計画書に反映させています。	2表の担当者欄が職員一辺倒とならないような視点があることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、業務日誌などを活用し、申し送りにて情報共有をしている。パソコンにて申し送りの実施。意見や提案はカンファ時に話し合う。必要に応じて、介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の希望・意向に可能な限り応えられるよう柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店との交流活動を行っている。買い物などは近隣のお店を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回清水城西クリニックの往診を実施。24時間体制がとられている。心身状態によっては、主治医の指示によって専門医の受診に行かれる方もいる。	月2回の訪問診療をおこなう医院に本年度から協力医を変えており、家族も「認知症に詳しい」と安心して全員が変更しています。立ち合いには管理者、リーダー、介護支援専門員と事業所も手厚く対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師が来所。往診での主治医からの指示も共有している。ご利用者様の健康管理、相談、指導をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を共有し、早期退院に向けて、相談員と連絡を取り合い連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化及び看取り介護に関する説明をし、ご家族に同意して頂いている。入居者様の心身状態の変化がある度に、ご本人・ご家族・主治医・看護師・職員で話し合い、意思確認を行っていく事をお伝えしている。	本年度から依頼している医師は24時間オンコールで、利用者の体調が悪いとなれば速やかに往診対応とさせていただきます。看取りにも協力的で、未だ連携した実績はないものの、職員の中には本件について未経験者も若干いることから心強い存在です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の応急対応や書記対応についての研修を行っている。緊急時対応マニュアルを作成し、職員の目の届く所においてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。消防署立ち合いのもと、スモークハウスの体験も実施。	例年9月と3月を実施月としており、本年はコロナ禍であっても消防署の立ち合いも叶い、水消火器など体験を中心におこなっています。特にスモークは利用者から具体的な感想が聞けて有意義な1日となっています。	次の2点を期待します。①新採者のオリエンテーションでは避難経路と通報装置の説明をおこなう ②非常食については毎訓練後に職員から提案を募り、向上を担保する

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーに配慮し、プライドを傷つけない様な声掛けをする様に気を付けている。お一人お一人の状態に合わせた言葉遣いや対応をしている。	利用者への接し方については、管理者が一方的に「これはだめ」というのは避けており、「こういわれたらイヤではないか」また「嬉しいか」を投げかけ、職員自ら考えることを大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定や選択しやすい様な言葉を使い対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日のスケジュールは決まっているが、入居者様の心身状態に合わせてながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、お化粧や整容の時間を設けている。ご本人に洋服を選んで着て頂く。ご自分で選択できない方には、介助時に声掛けをして対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルふき・食器洗い・食器ふき等のお手伝いをして頂いたり、「いただきます」の号令をかけて頂いたりしている。	チルド状態の業者納入を調理提供していることもあって、毎月外食レク(1月はかつぱ寿司)か昼食レク(2月はかつ丼)が励行されていましたが、3月以降は外食レクが難しくなり、昼食レクに力を入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養1日1500Kcal 水分1日1500ccを基準目標とし、その方に合った目標を設定し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る所はやって頂き、できない所はお手伝いさせて頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツはやめて、リハパンとパッドを使用しトイレ誘導している。24時間シートを活用し、定時誘導もやっている。	2人介助が必要でも、日中はおむつは使用せず全員トイレで排泄ができており、リハパンから布パンツに向上した例もあります。また家族の経済的負担も考慮したパットの検討も併せておこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んで頂く。水分も声掛けで飲んで頂く。体操や散歩をすることで腸の動きを活発にさせている。寒天ゼリーも使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がある方には、その方のタイミングを見て声掛けをし、納得して頂いてから入浴をして頂く様にしている。	現在は女性職員ばかりで工夫は必要ないものの、同性介助の希望に合わせた対応を旨とし、また気持ちよさを考慮して、浴剤も夏向き、冬向きと変えたり、家族から届くライムを浮かべる日もあります。	せっかく「選べる」機会なので、浴剤は数種類備え、利用者の希望を都度聞くと、なお良いと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方からは落ち着いて過ごして頂ける様に、塗り絵などを作って頂きながらクールダウンしていく。夕食後には日記を書いて1日の振り返りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作り、職員が見て把握できる様にしている。服薬時は、誤薬・与薬ミスなどがない様、職員のダブルチェックを行い、日付・名前を声に出して確認し、飲み込むまで確認している。往診時の薬の変更はパソコンを使って申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・取り込み・洗濯たたみ・食器洗い・食器ふきなど、その方に合った役割を見つけやってみる。毎日の散歩は気分転換を兼ねている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその方の体調に配慮し、散歩に毎日出かけている。暑い・寒い・花・野菜など見たり感じたりしながら季節を感じて頂く。	散歩が日課なことから、戸外でのマスク装着、戻ってからの手洗いうとがいは、職員が上手に声をかけて利用者も順守しています。マスクの中には、手芸が得意な利用者が仲間に手作りプレゼントくださったものも活躍しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお財布も持って、少額のお金をご自分で管理されている方もいる。ご自分のお財布を持って、買い物に出かける方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、入居者様が年賀状書いてご家族に送っている。希望があれば、ご家族に電話する事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の掃除・消毒は毎日行っている。温度・湿度にも気を配っている。毎月、貼り絵をみんなで作って掲示し、季節を感じて頂く様にしている。	コロナ禍となってからは「1時間に1回」との頻回な換気と、こまめなアルコール消毒をおこなうほか、清浄機や加湿器を増やし、またオゾン発生器も発注中です。外出機会が減った分、貼り絵はますます盛んで、月刊デイでは優秀賞も受賞、玄関に貼りだしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係に配慮しながら、座席を決めている。ソファーに座って、入居者様同士や職員と会話を楽しまれている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なるべくご自宅で使っている家具を持ってきて頂き、居心地の良い空間を作っている。テレビやラジオを持ち込んで楽しまれている方もいる。	重度化でベッド(=居室)で過ごすことになること、目が行き届かないことや本人も寂しく思うことから、リクライニング式の車いすを法人から借りたり、転倒の心配から家具の配置を替える等、状態変化で工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内には、余計な障害物は置かない様気を付けている。		